

町長室から

田上町長 佐野 恒雄

追々寒さに向かう季節になりました。

道の駅たがみが令和二年十月二十八日にオープンして一年が経ちました。おかげさまで、予想を大きく上回るにぎわいを見せています。一年間で直売所のレジを通過した方は約14万人で、コンビニや飲食コーナーのレジを通過された方なども含めると約49万人となります。

立地条件の良さがあると思いますが、駅長を始めとしたスタッフや出荷者の皆様の努力の成果だと思います。私も時々立ち寄りますが、毎月のように棚の配置替えや新しい商品を入れています。何となく寄ってみましたという雰囲気があります。地元の出荷者を大切にしていることも伝わってきます。野菜は大変新鮮だと評判です。

私が個人的に思っているのかもしれませんが、ご年配の方も多のですが若い方も多く訪れているようです。

オープン一周年のイベントは、護摩堂太鼓や五社神楽、両小学校の学校田から収穫した新米の販売、桐の端材を利用した中学生によるアート作品の展示等と意識的に地元に関係した催し物が行われました。

イベントの期間は毎日寄ってみました。私が印象に残っているのは、交流会館で催されたフルート奏者、本宮宏美さんの素晴らしいフルート演奏、そしてその後に行われた打ち上げ花火です。約10分程の短い時間でしたが、久しぶりに見る花火に思わず拍手する大勢の方の嬉しそうな表情がとても印象的でした。

新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、道の駅たがみの「近き者よろこびて、遠き者来る」というコンセプトが更に発展するよう取り組んでまいります。